

受付番号 公 25 - 02

未承認新規医薬品等評価部門にて承認された医療提供に関する情報公開

本院の未承認新規医薬品等評価部門にて、下記の医療提供が承認されました。

対象となる方から個別に同意をいただくことに代えて、病院ホームページにて情報を公開することにより、医療提供を行います。なお、本件について同意できない場合においても、あなた自身の診療において不利益を被ることはありません。

内容に関して拒否される場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

記

実施内容	治療抵抗性の苦痛に対するミダゾラム注の使用
実施責任者	名古屋市立大学病院 病院長 松川 則之
承認日	2025 年 5 月 19 日
対象期間	承認日から永続的に ただし、内容の見直しの必要性が生じた際はこの限りではない
対象者	治療抵抗性の耐えがたい苦痛（せん妄、呼吸困難、痛みなど）がある、または医療用麻薬を使用しても呼吸困難が持続する終末期の患者さん
目的・意義	患者さんの苦痛（せん妄、呼吸困難、痛みなど）に対して、さまざまな治療やケアを実践する反面、それでも患者さんが満足できる程度まで苦痛を和らげることができない場合があります。治療抵抗性の苦痛の緩和を目的として鎮静薬であるミダゾラム注（麻酔や処置、集中治療の際に使用するとうとうとするような薬剤）を使用することが、緩和医療学会の手引きなどで明記されています。また、呼吸困難に対して医療用麻薬と併用してミダゾラム注を投与することも緩和医療学会のガイドラインで明記されております。方法は保険適応外ですが、当院ではガイドライン等での使用方法に従って使用します。
使用条件 実施条件	ミダゾラム持続静注および持続皮下注 鎮静を検討するうえで、院内の「緩和ケアマニュアル」をもとに、持続的な鎮静薬の投与を行う要件について必ず多職種で協議し、その内容をカルテへ記載した上で実施します。 開始にあたっては、患者さん・ご家族さんの意思（患者さんの意思表示が難

	しい場合には、患者さんの推定意思）を確認したうえで使用します。必要に応じて緩和ケアセンター作成の説明文書をお渡しします。 鎮静を開始した後も、できるだけ苦痛の少ない状況で過ごせるようミダゾラムの投与量を調整します。状況に応じて中止ができることもあります。
想定される不利益 および対策	呼吸抑制、過鎮静、傾眠などの副作用が起こる可能性があります。過量投与が疑われる場合は、速やかに投与を中止し、拮抗薬であるフルマゼニル注を投与します。
本項の実施を 拒否される場合	本項の実施内容を拒否される場合は、「医療拒否（オプトアウト）通知書」を記載先までご提出ください。 なお、本件について同意できない場合においても、あなた自身の診療において不利益を被ることはありません。
お問い合わせ先	名古屋市立大学病院 未承認新規医薬品等評価部門（医療の質管理課内） 〒467-8602 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1 番地 電話 052-851-5511（代表）

令和7年5月8日作成